

《IFTAサンフランシスコ大会》



高橋 俊治

昨年(2012年)のシンガポール大会に続いて、本年(2013年)のIFTAサンフランシスコ大会参加となりました。

昨年は、トランスレーション(日本語同時通訳)ヘッドホンを使用して、なんとかその意味を理解することができました(できたつもり?)。しかし、このサンフランシスコ大会では、日本人はたった6名の参加(昨年シンガポール大会では20数名が参加)なので、費用対効果なのか、同時通訳はなしと聞かされての参加でした。

さて、英語onlyのセミナーを3日間続けて、自分は集中し、かつ真面目に聞けるのか。同大会の参加について、とても悩みましたが、昨年参加したシンガポールでの、各パネラーのテクニカル分析に関する持論のユニークさとセミナーでの気迫を込めた講義がとても印象に残っており、再度、参加してみようと決心しました。



2013年10月6日、初めてのサンフランシスコ到着。セミナーまで2日余裕を持ってやってきたので、まずはサンフランシスコ観光に勤しみました。フィッシャーマンズ・ワーフでは、名物クリーム・チャウダーを堪能しました。とてもクリーミーで蟹の量も納得いけて、うまかったです。しかも、5ドル60セント。サンフランシスコでは、これ以上安い食事はありませんでした。(バーガー・キングのモーニングでも6ドルしたと記憶しています。)

次に、アルカトラズ島へ行こうと予定していましたが、あいにく、シャットダウン（アメリカ政府の政府機関閉鎖）のため、島への出入り禁止となってしまう、湾内クルーズで海から、遠巻きに同島を眺めたに留まり、フラストレーションが少し溜まりました。次に、チャイナ・タウンを散策し、ケーブル・カーでアップダウンの激しい起伏のサンフランシスコの街を観察しました。



そして、壮大で、気品のある橋。ゴールデン・ゲートブリッジを見た時は感動しました。1939年完成の同橋を眺めながら、よくもまあ、こんなすごい橋を建てた国と戦争したものだ。初めから勝てるわけなんかないだろう。そう思わざるを得ない気分でした。



さて、本題の IFTA 大会についてコメントします。今回も様々な国のパネラーの皆さんが、熱の入ったセミナーを披露してくれました。ギターを弾きながら、まるで牧伸二みたいな講義した人もいたし、制限時間をオーバーして、司会の方から、すぐに終わるよう促されても、平気で続けた方。この3日間ですが、総評として、今回もユニークで熱いものがありました。

最後に、酒井慶喜さん。日本人としてJOHN BROOKSアワードに輝いた同氏を心から尊敬し、誇りに思います。堂々とした受賞時の振る舞いを見て、自分も頑張らねばと大いに触発されました。「あなたにとって、チャートとは何ですか？」このように質問された酒井さんは「チャートはアートです。(Chart IS ART)」と答えました。テクニカル・分析を極めた人の言葉です。

